

グローバリゼーションにおける「ナショナルなもの」の再考

- I はじめに
- II 民族、国民意識の形成過程
- III ナショナリズムが果たしてきた三つの役割
- IV 反動的ナショナリズム克服のための選択
- V 人は「ナショナルなもの」を超えられるか
- VI おわりに

ナショナリズムとは、第一義的には、政治的な単位と民族的な単位とが一致しなければならないと主張する一つの政治原理である

(アーネスト・ゲルナー 『民族とナショナリズム』岩波書店、2000 年、1 頁)

I はじめに

第一次世界大戦後アメリカ大統領ウィルソンはパリ講和会議で公正で平和な国際秩序を確立するために「民族自決」の原則を打ち出した。そして初の国際機構として国際連盟が創設された。そして第二次世界大戦後から植民地であった国々の独立に伴って民族自決は国際政治の根本原則となった。

しかし人、モノ、金がグローバルに移動する現代においては「地球市民」や「国家相対化論」などに代表される「ナショナルなもの」を否定する言説が隆盛を極めている。本勉強会においては、現代に至るまで「ナショナルなもの」がどのように発生し、機能していたかを振り返り「人は真にナショナルなものを超えられるか」をテーマに、その困難さを再認識するとともに現実的な打開策を考察していきたい。

II 民族、国民の形成過程

ベネディクト・アンダーソン

国民とはイメージとして心に描かれた想像の政治共同体 (*imagined political community*) である。そしてそれは本来的に限定され、かつ主権的なものとして想像される。

(ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』NTT出版、1997 年 24 頁)

□ 民族意識成立の過程 [Print capitalism (出版資本主義)]

1. 聖なる語 (聖なる書に書かれる文語) の失墜 → ・宗教改革などで加速
2. 印刷物が生み出す「均質で空虚な時間」による同時性

積極的な意味で、この新しい共同体の想像を可能にしたのは、生産システムと生産関係 (資本主義)、コミュニケーション技術 (出版・印刷) そして人間の言語的多様性という宿命性のあいだの、なかば偶然の、しかし、爆発的な相互作用であった。

(ベネディクト・アンダーソン 『想像の共同体』 NTT出版、1997年、82頁)

3. 「出版語」が国民意識の基礎を形成する
 - ・ 交換とコミュニケーションの統一的な場
 - ・ 出版語が生み出した言語の固定性

アーネスト・ゲルナー

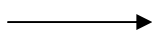
□ 民族意識成立の過程 [近代化に伴う社会学的な現象]

一般に信じられ、学問的根拠があるとさえ考えられている見解とは反対に、ナショナリズムは人間の心の中に根深い起源を持っているわけではない。

(アーネスト・ゲルナー 『民族とナショナリズム』 岩波書店、2000年、58頁)

農耕社会

- ・ 安定的な社会
- ・ 固定的な労働
- ・ 曖昧な言語
- ・ 血縁、地域に基づく教育



産業社会

- ・ 流動的な社会
- ・ 複雑な分業を必要とする労働
- ・ 規則的で正確な言語
- ・ 国家による教育

1. 労働の性質と社会の変化による「正確な言語」の必要性
2. 国家による教育が提供する高等文化 → アイデンティティの核
3. ナショナリストの自己欺瞞を暴く

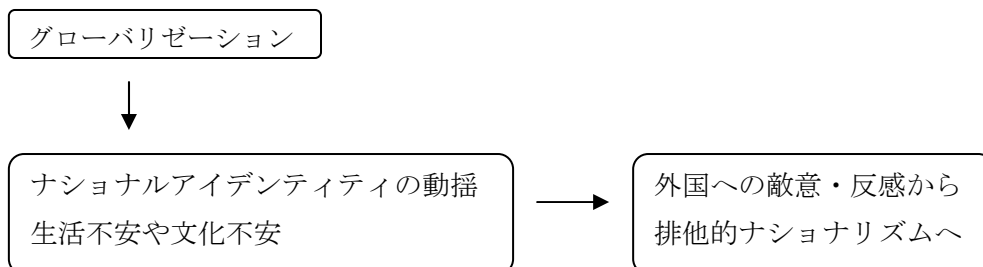
Ⅲ ナショナリズムが果たしてきた3つの役割

1. 世界経済における「競争力」
→ 「民族国家」が国家モデルの統一規格に
2. 領土支配の正当化
→ 伝統によって事実を権利に
3. 個人に国民としてのアイデンティティを与える
→ 平等主義への関心

Ⅳ 反動的ナショナリズム克服のための選択

1. グローバリズムとナショナリズム
 - ・ グローバリズム・・・資本・商品・人・文化などの伝播の活発化による
国家間の交流や依存関係が強まる現象
 - ・ 文化の同質化と異質化の二面性

2. 「反動的」ナショナリズムとは何か



3. 反動的ナショナリズム克服のための選択

- 国家、民族はフィクションである
 - ・ 「文化本質主義」の否定
 - ・ 社会的構成物としての新しい文化観の必要性

- 国家、民族はフィクションとして実在する
 - ・ 国家とは私たちの心の中＝「内側」に根拠を持つフィクションである
 - ・ 民族の存在は歴然とした事実のように感じられる

V 人は「ナショナルなもの」を超えられるか

1. ナショナリズムを相対化する概念は「強者の論理」ではないか
 - ・グローバルゼーションにおける「強者」と「弱者」
 - ・「ナショナルなもの」を捨てることの出来ない国々の存在

民主主義と同様に、ナショナリズムは「自分たち」への夢を乗せた考え方である。
その夢を冷笑するものは、夢の要らない恵まれた立場にいるだけのことだ。

(藤原帰一『平和のリアリズム』岩波書店、2004 年、103 頁)

2. 現実のナショナリズムにおける文化的側面の脆弱さ
 - ・ナショナリズムによるスケープゴートィング
 - ・ナショナリズムの真の課題は現実的な経済的、政治的不正である

人種主義や歴史的な不正のような抽象的な概念、学校や家庭の食卓で語られるような逸話が憎しみをかき立て、暴力へ駆り立てることはまれである。それには明確な不正が存在していなければならない。

(マービン・ゾニス他 『グローバリズムの失敗に学ぶ 15 の原則』アスペクト、2005 年、60 頁)

VI おわりに

【 参考文献および資料 】

- ベネディクト・アンダーソン 『想像の共同体』 NTT出版 1997 年
アーネスト・ゲルナー 『民族とナショナリズム』 岩波書店 2000 年
藤原帰一 『平和のリアリズム』 岩波書店 2004 年
坂元多加雄 『国家学のすすめ』 ちくま新書 2001 年
関廣野 『民族とはなにか』 講談社現代新書 2001 年
関根政美 『多文化主義社会の到来』 朝日選書 2000 年
J・シーブルック 『階級社会 - グローバリズムと不平等 - 』 青土社 2004 年
M・ゾニス D・レフコビッチ S・ウィルキン 中谷和夫 訳
『グローバリズムの失敗に学ぶ 15 の原則』 アスペクト 2005 年